

安全マネジメント推進要綱

2022年度



両備ホールディングス株式会社
東備バス株式会社

■はじめに

2022年度も「日本一安全な運輸企業」を目指した取組みを引き続き実施します。2009年2月に発せられた経営トップのコミットメントは、日本一安全な運輸企業を目指すとした大作戦を展開し、管理者・乗務担当社員・労使が一体となり、真のドライバー目線で指導・教育を確実に行う事により、社会やお客様に対し安全・快適な輸送サービスを提供します。

具体的には、SSPブラッシュアップ推進委員会での組織活動により、1人のリーダーが5人の指導を行い(チーム5制度)、全体のレベルアップを図ります。現場指導を中心とし、無事故模範ドライバーであるリーダーが自らの経験による事故回避の秘訣を班員に伝授することにより、「考える運行のできるセールスドライバー」を育成します。

事故は、COO・管理者・運行管理者・教育担当者や整備担当者と労組・乗務担当社員との共同正犯であることを受け止め、全社一丸で対応します。

事故を未然に防ぐため、点呼・健康管理システム等のハード面の充実を図るほか、運転適性診断や健康診断、ドライブレコーダーやデジタルタコグラフの結果による要注意者をリストアップし、添乗指導や各研修をグループバス会社と合同で行うことにより、多角的な視点から「悪い癖」を修正していきます。とりわけハインリッヒの法則の通り、小さい事故の積み重ねが重大事故に繋がっている点から、小さい事故の段階で指導をより強化していきます。また、ヒヤリハット情報の収集を促進させ、危険予知トレーニングを実施することで、道路交通に潜む危険を事前に予測し、適切に対応することにより交通事故を未然に防止します。総じて「優しい」が安全・安心に繋がることを留意して、「5SAF」「優しい運転・優しい言葉・優しい接客」を実践することで、お客様の安全・安心を担保します。

社員一人ひとりが「尊い人命を預かっている」という社会的使命を自覚し、「忠恕(真心からの思いやり)」の精神での運転&接客に努め、社会やお客様に愛され信頼される運輸企業となるよう全社員の力を結集し、安全&快適運行に努めます。

両備バスグループ安全指針

- 安全が最大の顧客サービス（「人命第一」&「安全最優先」）
- 厳正な点呼の実施（「国交省メールマガジン」&「個人重点目標」）
- 安全意識を高め、現場力のアップ（SSPブラッシュアップ運動）
- 安全確保重点カレンダーに従った事故防止（「人命第一」人身事故防止運動）

■2022年安全目標

グループ安全スローガン

- ・高めよう！プロ意識 ～ 優しい運転、優しい接客の徹底
- ・深めよう！コミュニケーション ～ 声を掛け合いルール違反根絶
- ・達成しよう！新交通三悪撲滅 ～ 知行一致とリスク対応

バス部会スローガン

- ・決めたルール、みんなで守ろう責任と自覚

両備バスカンパニー安全目標

『ABCで基本動作を徹底』

～A「当たり前前」の事を B「バカにしないで」 C「ちゃんとやる」～

- ・優しい運転、優しい言葉、優しい接客を銘肝しよう
- ・ヒヤリハットの共有で事故の芽を未然に摘もう

事故削減心得6則

- ・車両の特性を知りましょう。
- ・運転技術を磨きましょう。
- ・健康状態を管理しましょう。
- ・道路交通法を守りましょう。
- ・接客サービスを徹底しましょう。
- ・国土交通省告示第1676号の各項目を厳守しましょう。

1. 輸送の安全に関する基本的な方針

1) 両備グループ安全宣言

社会正義の経営方針に則り、交通運輸各社は、「運輸安全マネジメント」に基づき、「安全」を最優先とし、「日本一安全な運輸企業」を目指して頑張ることを宣言します。

2) 活動方針

両備グループ安全マネジメント委員会を中心に、労使参加で、より現場に密着した効果的な活動を展開し、目標である「日本一安全な運輸企業」を目指します。

* SSP-UP=S=safety&security(安全), S=service(サービス), P=productivity(生産性)

3) 安全方針

- ①安全運転を第一とし、法令順守し、基本に忠実に日々業務を遂行すること。
- ②車両の整備を的確に行い、始業点検を厳正に行うこと。
- ③点呼において、日々安全への啓蒙、関心を高めること。
- ④教育を通じて安全意識を常に涵養すること。
- ⑤万が一重大事故の場合、人命尊重を第一に対処し、速やかに上司、関係機関への連絡をとること。

2. 輸送の安全に関する目標(2022年度)

10万キロ当たり責任事故件数0.05件以下達成を目標とする。

責任事故 4件以内

(責任事故…過失割合が重く、事故損害額が50,000円を超える事故)

3. 事故に関する統計

自動車事故 報告規則 第2条に 規定する事故	人身	0件	0.000件/10万 ^{キロ}
	疾病による 運行中断	2件	0.023件/10万 ^{キロ}
	車両故障	1件	0.012件/10万 ^{キロ}
責任事故		12件	0.140件/10万 ^{キロ}
総事故(含 被害事故)		43件	0.501件/10万 ^{キロ}

(統計年度は4月～3月
東備バス含む)

2021年度目標の10万キロ当たり責任事故件数0.05件以下は、2021年度実績0.14件のため目標未達成となりました。

4.輸送の安全に関する組織体制(別紙)

- ①両備グループ安全マネジメント委員会
- ②両備バス安全マネジメント委員会
- ③両備グループバス部門SSPブラッシュアップ推進委員会
- ④両備グループ安全管理室

5.輸送の安全に関する重点施策

- ①運転行動の基本に戻り、日々の業務を安全に遂行します。
- ②蓄積した事故データと適性診断の結果に基づいた事故分析システムを活用して、事故を未然に防ぎます。
- ③指差確認喚呼と左折時一旦停止、右折時一旦停止又は最徐行で交差点事故を根絶します。
- ④点呼・健康管理システム「点呼・健康:ご安全に！」を活用し、健康起因事故の防止を図ります。
- ⑤頭部MRI・MRA検査と睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査を実施し、健康状態を管理します。
- ⑥日常点検・中間点検を確実に実施し、車両の不具合による事故の根絶を図ります。
- ⑦「点呼・健康:ご安全に！」と車両管理システムの連携により無車検運行を防ぎます。
- ⑧他山の石、ヒヤリハット情報&国交省メルマガの活用で、危険予測、予見運転意識を高めます。
- ⑨事故・苦情の撲滅を目指したSSPブラッシュアップ運動の展開で、現場力を高めます。
- ⑩教育・研修を通じ、安全意識を涵養し、飲酒・薬物&携帯電話・スマホにかかる指導を継続的にを行います。
- ⑪大型自動車教習コースを使用した実技教育により、車両特性を身に付けます。
- ⑫情報の迅速・正確さの向上を図り、安全運転に活用します。
- ⑬事業所の巡視・監査を通じ、現場の諸問題を速やかに解決します。
- ⑭ヒヤリハット報告のドライブレコーダーを活用した危険予知トレーニングで事故の芽を摘みます。
- ⑮職場内対話の充実により、風通しの良い職場を構築し、不安全行動を防ぎます。
- ⑯全乗務担当社員のドライブレコーダーを定期的に確認し、結果に基づいた指導を実施します。
- ⑰AIによる「ドライブレコーダー分析システム」を活用し、個人用携帯電話・スマホルール違反を防ぎます。

6.事故・災害時の連絡報告体制(別紙)

7.輸送の安全に関する会議等の実施計画(別紙)

輸送の安全目標達成のため、昨年の事業の検証を行い、現状の問題点を抽出した上で、安全マネジメントの実効をあげる輸送の安全に関する計画を見直しします。

8.輸送の安全に関する教育・研修等の実施計画(別紙)

9.輸送の安全に関する研修・設備投資等の実施計画(別紙)

10.輸送の安全に関する内部監査

- ①安全統括管理者による内部監査(年1回)
- ②グループ安マネ委員会監査役・SSPブラッシュアップ委員による業務監査(随時)
- ③カンパニー長(副カンパニー長)による抜き打ち訪問(随時)
- ④内部監査委員による定例監査(整備・人事・財務)
- ⑤労使メンバー安全点検職場巡回(年12回)
- ⑥バス部会各社による相互監査(随時)

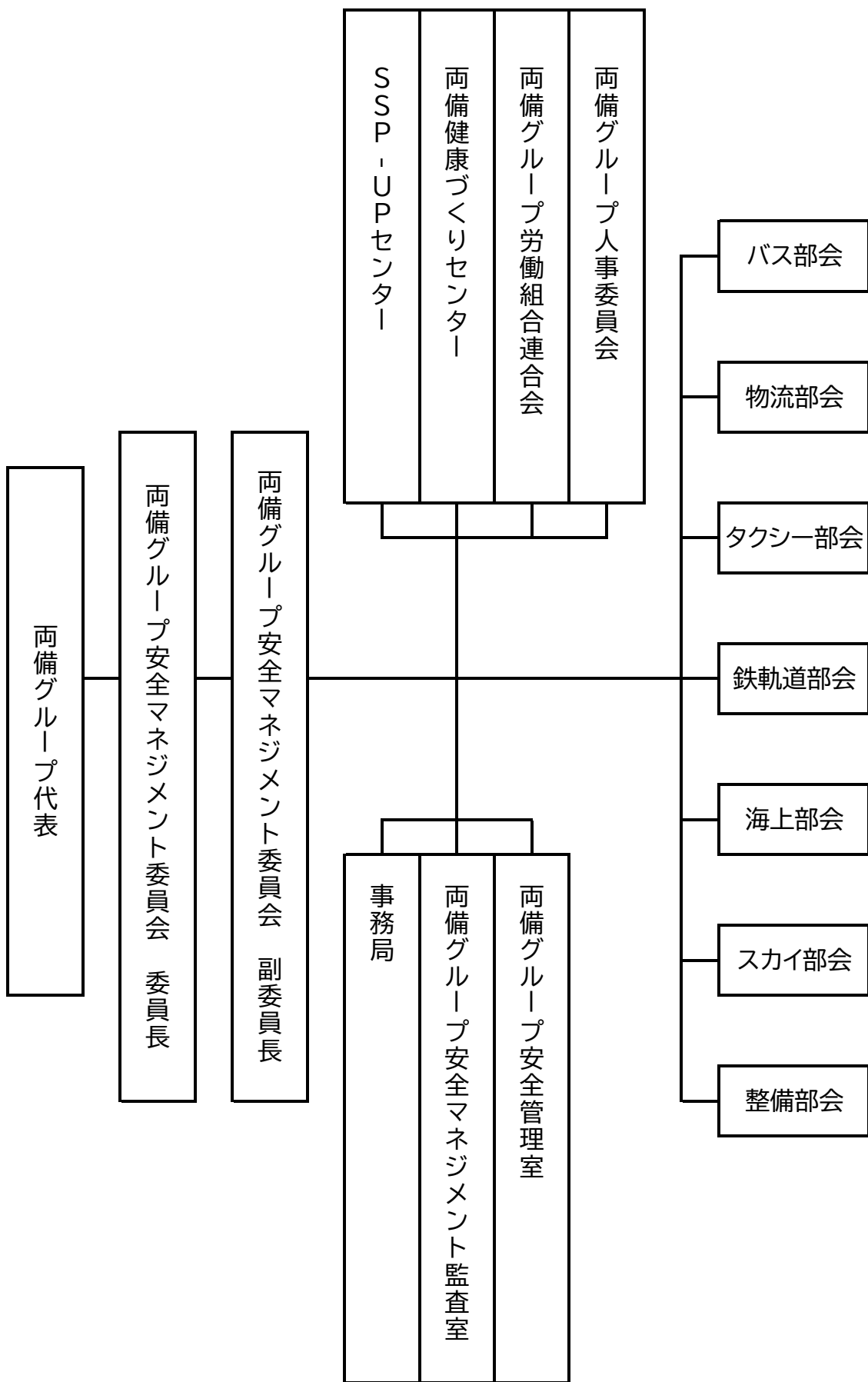
11.安全に関する資料、記録の保存

- ①輸送の安全に関する基本的な方針
- ②輸送の安全に関する重点施策
- ③事故・災害時の連絡報告体制
- ④輸送の安全(施策の見直し)に関する会議の議事録
- ⑤事故・災害等報告記録
- ⑥運輸局通達等発信情報記録
- ⑦輸送の安全に関する内部監査結果

12.経営トップによる見直し・改善指示

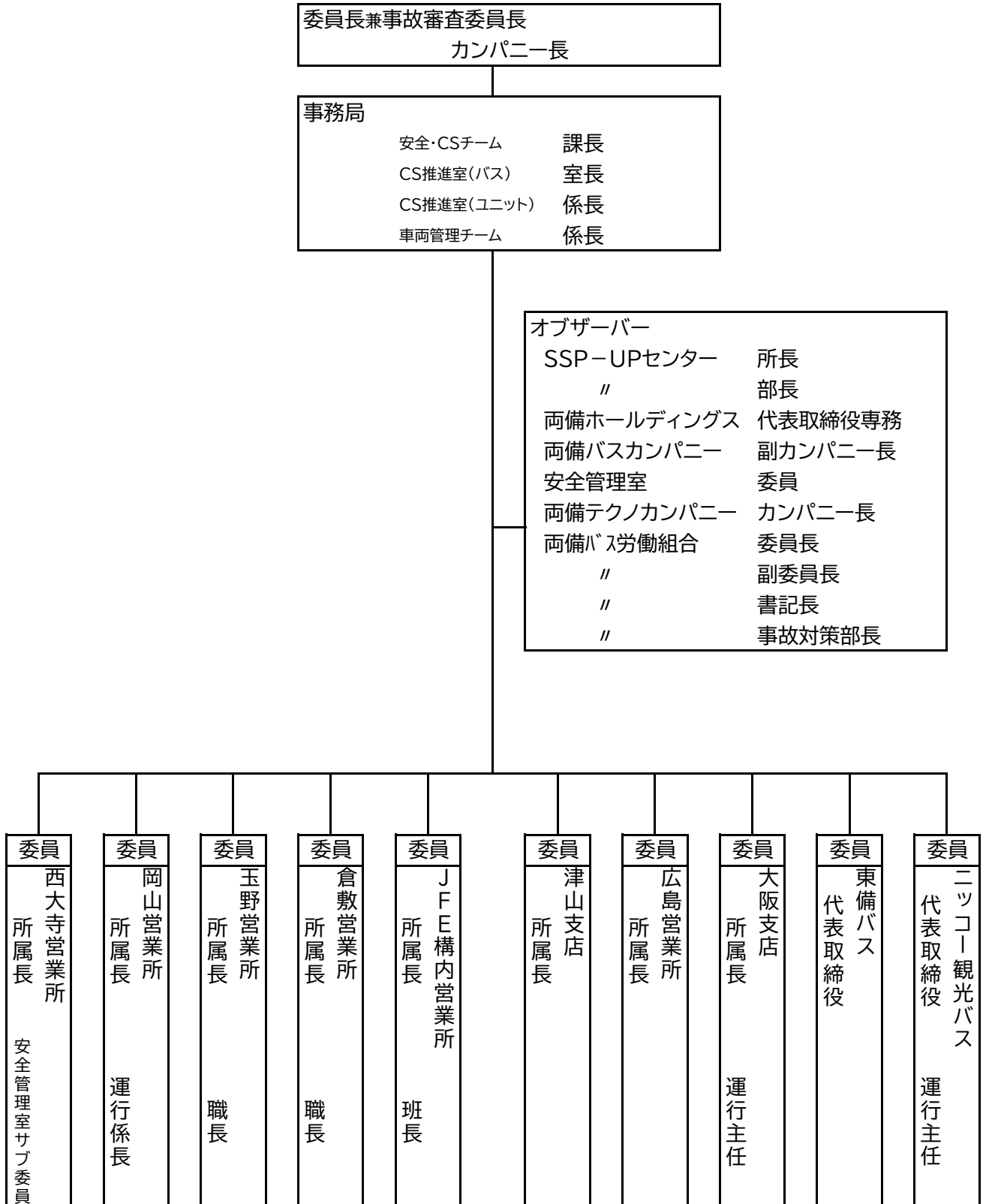
両備グループ安全マネジメント委員会を毎月開催し、経営トップの判断が必要な場合は、遅滞なく改善指示をします。

■両備グループ安全マネジメント委員会組織図

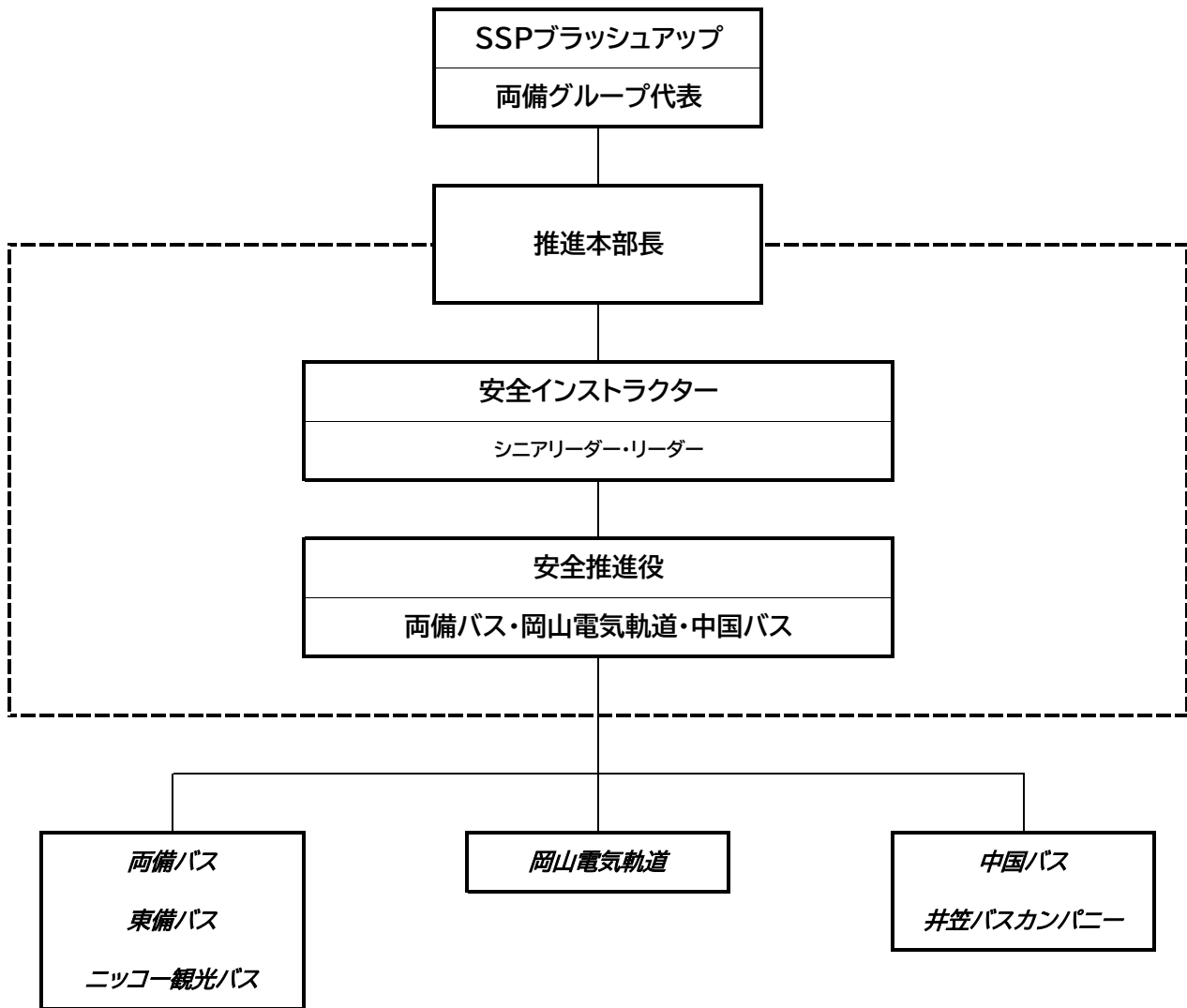


■両備バス安全マネジメント委員会組織図

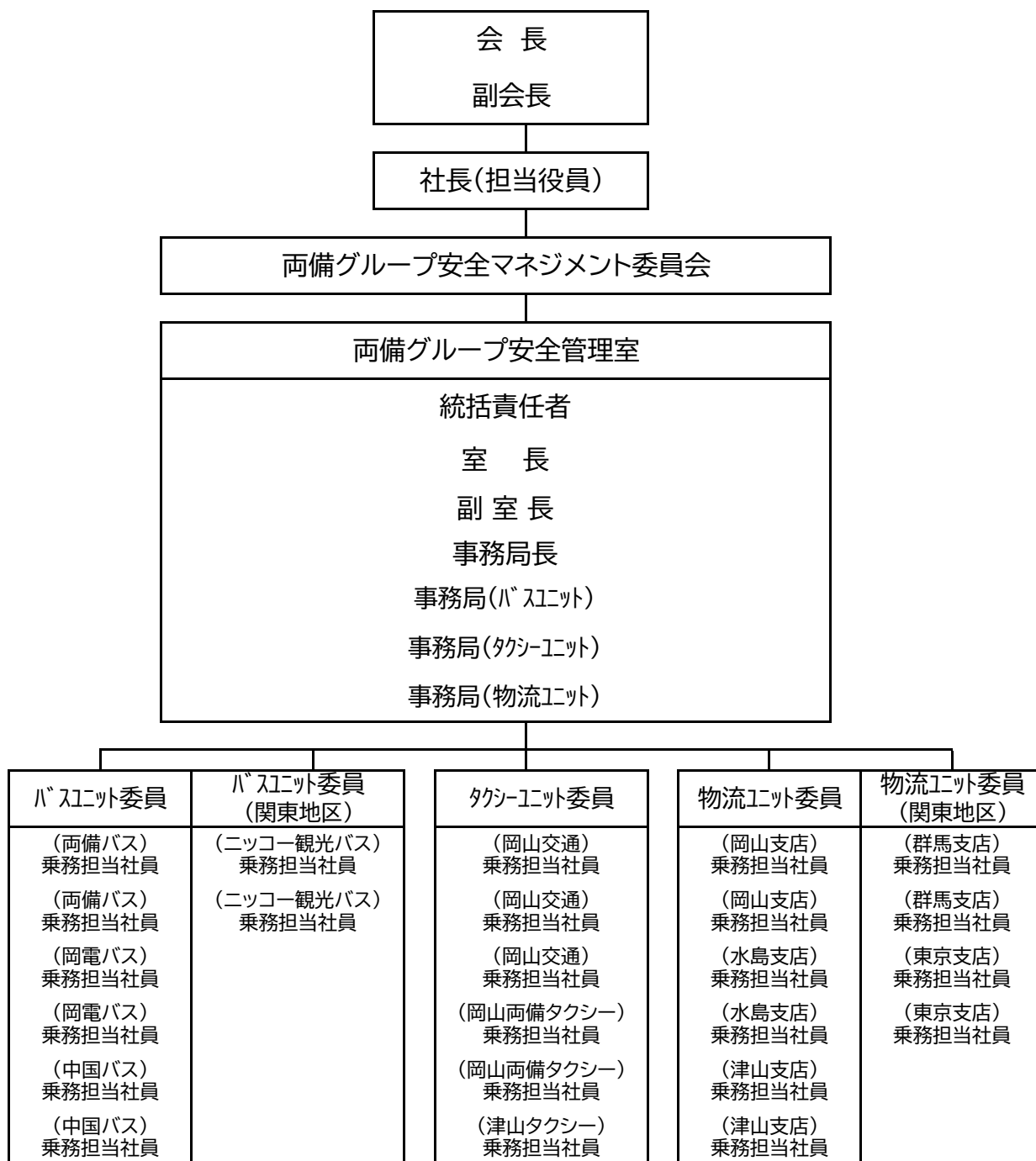
両備バスカンパニー
東備バス



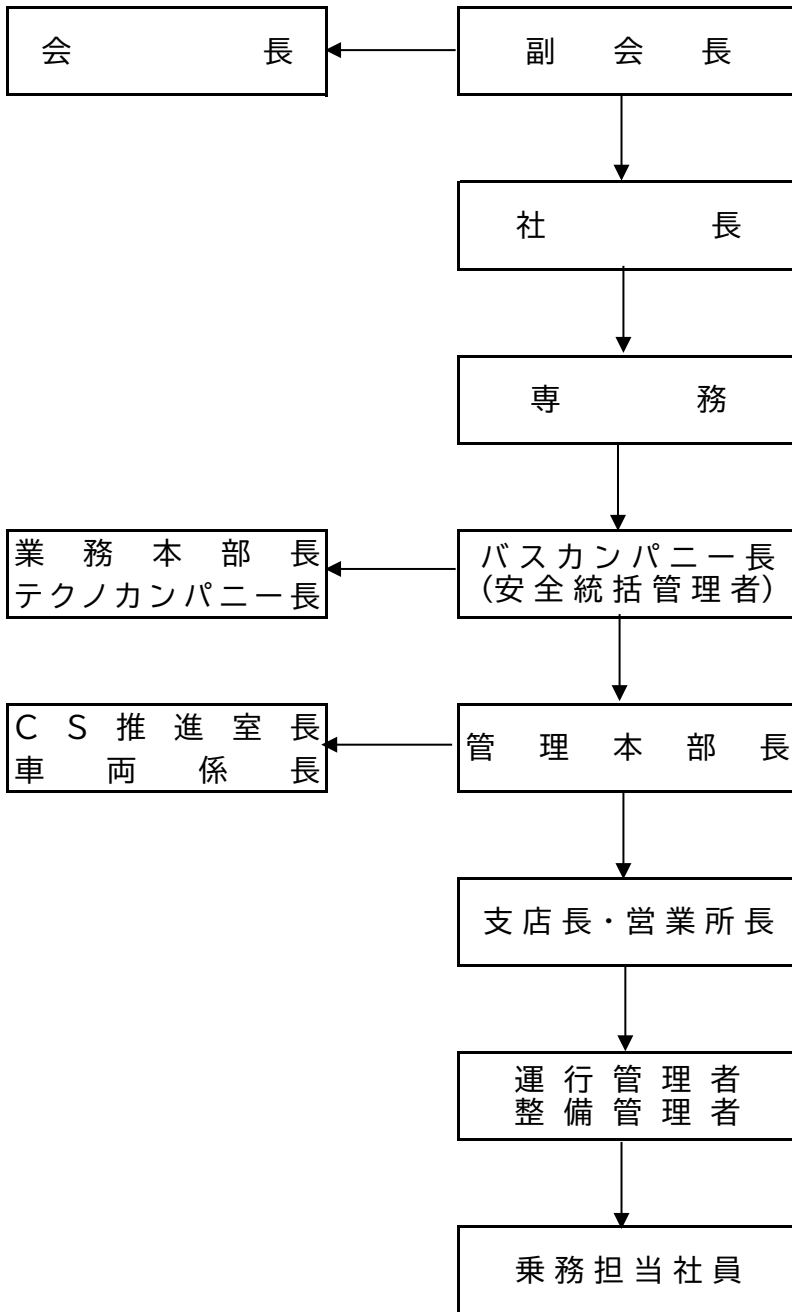
■SSPブラッシュアップ推進委員会組織図



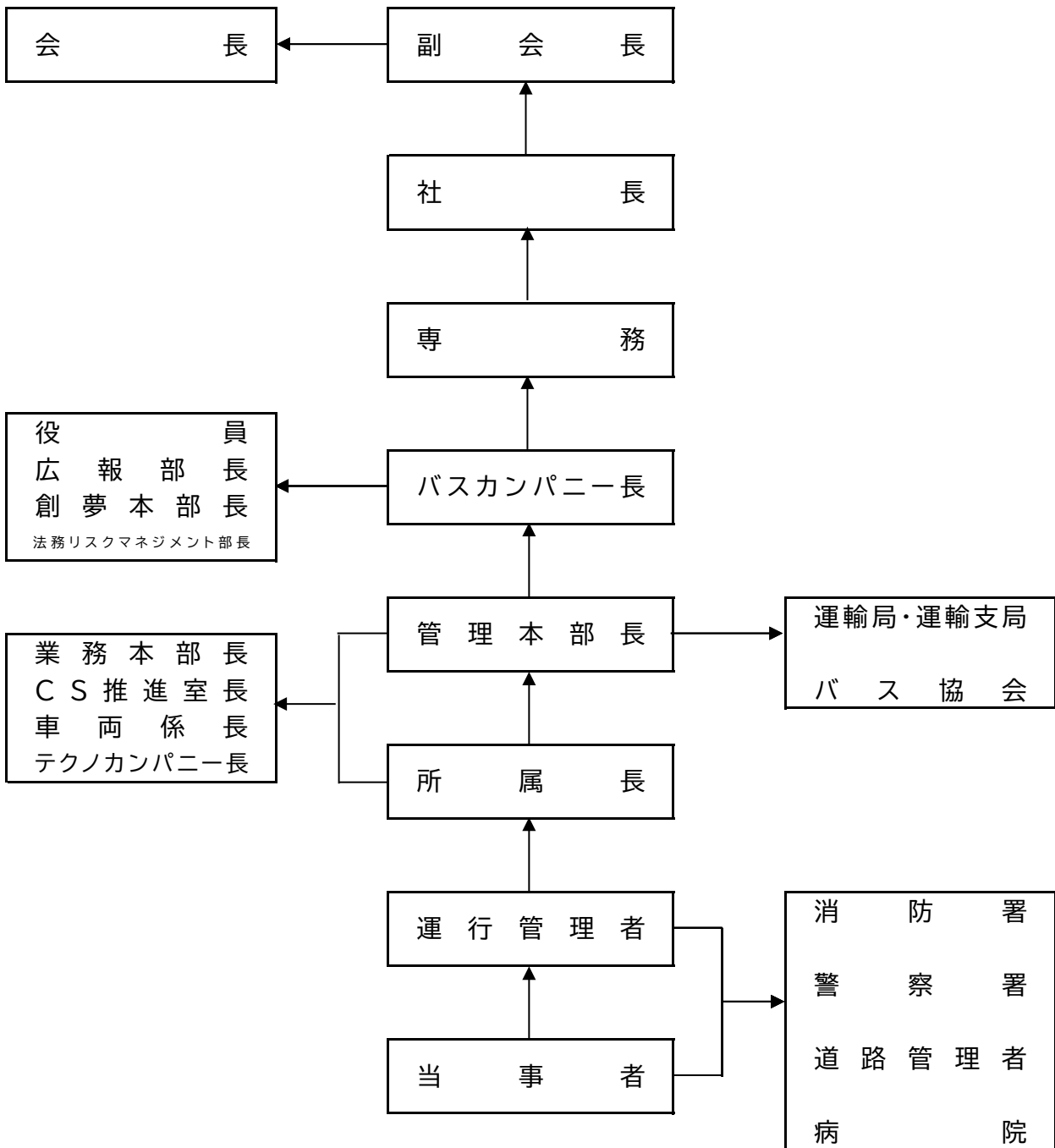
■両備グループ安全管理室組織図



■輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統図



■事故・災害時の連絡報告体制図



■輸送の安全に関する会議等の実施計画(2022年度)

両備バスカンパニー
東備バス

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
両備グループ安全マネジメント委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
両備グループ安全マネジメント委員会バス部会	○		○		○		○		○		○	
両備バス安全マネジメント委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
無事故・無違反啓発の日(毎月6日)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SSP-UP安全総点検日(毎月10日)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
交通事故0の日(毎月19日)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
交差点注意日(毎月20日)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スマホを風化させない日(31日)		○		○	○		○		○	○		○
安全統括管理者内部監査										○	○	
バスユニット相互監査		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SSP-UP技能コンテスト						○						
両備グループ交通安全月間				○								
両備グループ交通安全日(7月31日)				○								
車検切れの日(5月22日、12月30日)		○							○			
スマホ事件を風化させない日(10月31日)							○					
スマホ依存度調査						○						
運転記録証明書取得											○	
春秋交通安全運動、年末年始安全総点検		○				○			○	○		
新学期の思いやり実践期間(4月1日～5日)	○											
飲酒調査個人面談						○						○
定期健康診断(夏・冬2回)					○						○	
産業医巡回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SSPブラッシュアップ委員による面談指導					○							○
中間点検・点呼立会い・添乗指導	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
無事故表彰(営業所)			○						○			
無事故表彰(個人)												○

輸送の安全に関する教育・研修等の実施計画(2022年度)

①両備バスカンパニー・東備バス

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	日数	担当	備考
新入運転者教育	随 時												集合12日間 配属先2ヵ月	管理本部 各営業所	(座学)本社(実技)教習コース、各営業所 (配属後)配属先営業所
運行管理者(運行管理補助者)教育	○						○	○	○	○			0.5日	管理本部	(座学)本社
新任運行主任教育					○								1日	管理本部	(座学)本社
新任職長・班長教育						○							0.5日	管理本部	(座学)本社
一般運転者教育(ドラレコを使ったKYT・デジタコ・スマホ等)						○	○	○	○	○			1日	管理本部	(座学)本社、大阪支店
事故惹起者教育		○		○		○			○				1日	管理本部	(座学)本社(実技)郊外
大型バス技能教育(貸切)						○							2日	管理本部	(座学)本社(実技)岡山営・米子道・山陰
大型バス技能教育(高速乗合)			○				○						3日	管理本部	(座学)本社(実技)教習コース・岡山営・高速道各方面
雪上訓練		○											1日	管理本部	(実技)蒜山・大山
運行管理者基礎講習						○						○	3日	NASVA	
運行管理者一般講習	○						○		○				1日	NASVA	
安全マネジメント講習会					○				○				0.5日	NASVA	リスク管理・ガイドライン・内部監査
適性診断活用研修(指導者)							○						0.5日	NASVA	
適性(適齢)診断	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		NASVA	適齢は65歳到達後1年以内 以降67歳 69歳時に実施
適性診断受診者個別指導	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		営業所	
一般運転者教育(国交省告示1676号)	随 時													営業所	乗務担当者必携、国交省メルマガ等使用
運転実技教育		○						○					1泊2日	クレフィール湖東	

②両備グループ バス部門合同(両備HD・岡山電気軌道・中国バス・井笠バスカンパニー・東備バス・ニッコー観光バス)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	日数	場所	備考
新任バス運転者基礎教育(座学)	随 時												3日	SSP-UPセンター	
新任バス運転者基礎教育(技能教育)	随 時												1日	備前自動車大型教習コース	
初任バス乗務担当社員フォローアップ教育	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1日	SSP-UPセンター	
ベテラン(高齢)運転者教育(55歳時対象)			○				○	○				○	1日	岡電バス 岡南営業所	
事故惹起運転者教育		○		○		○		○		○		○	1日	SSP-UPセンター	
SAFTY教育(技能教育)	○		○		○		○		○		○		1日	備前自動車大型教習コース	
接客サービス教育(苦情多発者対象)		○				○						○	1日	SSP-UPセンター	
SSP-UP技能コンテスト									○				1日	備前自動車大型教習コース	
SSP-UP技能コンテスト関東大会						○							1日	南横浜 自動車学校	

■輸送の安全に関する研修・設備投資(2021年度・実績)

項 目	合 計	備 考
教育に係る費用	2,168,200	
車両など設備に係る費用	109,691,071	機器更新等
健康管理に係る費用	201,140	SAS・MRI検査等
その他、安全管理に要した費用	622,310	適性診断等
総 計	112,682,721	

■輸送の安全に関する研修・設備投資(2022年度・予算)

項 目	合 計	備 考
乗務員教育に係る費用	3,074,000	
車両など設備に係る費用	676,000	機器更新等
健康管理に係る費用	254,800	SAS・MRI検査等
その他、安全管理に要した費用	662,800	適性診断等
総 計	4,667,600	

ご安全に！

2022年6月1日

両備ホールディングス株式会社 バス部門・安全統括管理者
兼執行役員・両備バスカンパニー長

山田 英夫

東備バス株式会社 安全統括管理者

河田 竜吾